



利しなければならぬと述べておられるのが、このみ言の意味なのです。ところが、『統一教会の分裂』は前後の部分を隠蔽することで、み言の真意をゆがめています。『統一教会の分裂』が前述のみ言を「韓鶴子の不従順」を裏づけるものであると述べるのは「虚偽の主張」です。このみ言は「韓鶴子の不従順」とは全く関係ありません。

②「二つの峠」を越えるための母の責任を果たされた真のお母様

前述したように、二〇〇二年一月二十三日、真のお父様は「二つの峠」について、次のように語っておられます。

「最後には、自分(真のお母様)が同参しなければなりません。先生が責任を負ったのは、世界的ですが、先生がいなくなる**とき**には、お母様が責任を負わなければならないのです。

……お母様の責任が何かというと、それです。お金を主管し、息子(二世)を主管して夫(天)の前に捧げなければなりません」(マルスム選集367-263-264)

真のお父様が「先生がいなくなる**とき**には、お母様が責任を負わなければならない」と語られたように、真のお母様は、お父様の聖和後、「最後には、自分(お母様)が同参」して勝利されなければならない。それは「二つの峠」を越えていくこと、すなわち「お金を主管し、息子を主管して夫(天)の前に」捧げることです。

真のお父様は、二〇一三年天曆一月十三日を「基元節」、すなわち実体的天一国の出発であり、起源となる日と定められ、死生決断・全力投球の歩みをされました。そのような中、お父様は二〇一二年天曆七月十七日(陽曆九月三日)に聖和されま

を主管して「天の前に全てを捧げる歩みをされました。二〇〇二年一月二十三日、真のお父様が「先生がいなくなる**とき**には、お母様が責任を負わなければならないのです。……お母様の責任が何かというと、それです。お金を主管し、息子(二世)を主管して夫(天)の前に捧げなければなりません」と語っておられた、この「二つの峠」を越えるための「母としての責任」を果たされ、二〇一三年天曆一月十三日、真のお母様は「基元節」を勝利していかれたのです。

(2)二〇〇四年一月二十六日のみ言―真のお父様は「残念な感情」を表出されてない

『統一教会の分裂』は、真のお父様が「韓鶴子の不従順」に対して苦心しておられるみ言であるとして、二〇〇四年一月二十六日のみ言を引用します。

したが、真のお母様はお父様のご意向を受け継がれ、「基元節」勝利のために歩まれました。二〇一二年九月十七日に「基元節」勝利のための統一教会世界指導者特別集会」が開催され、真のお母様は次のように語っておられます。

「真のお父様は今、霊界で私たちいつも共にいらっしやいます。ただ無形でいらっしやるだけであり、一瞬たりとも私たちの傍らを離れることはないでしょう。今私たちに何を望んでいらっしやるでしょうか。正に中断のない前進です」(『平和経』352ページ)

真のお母様は、「基元節」勝利のために「中断のない前進」を宣布されました。また、二〇一二年九月三十日に次のように語っておられます。

「私たちは二世を天の前に捧

「ここに**お母さん**もおられますが、先生が**これからはお母さん**とは別れて、再び結婚の準備をしなければならぬというのです。そうです。今まで世間に染まっています。そうだからと言って、他の人の家庭とすると**いうのでは**ありません。愛し続けることができない**というので**す。きれいに清算して、再び愛さなければならぬ**というので**す」(マルスム選集433-139、『統一教会の分裂』246-247ページ)

『統一教会の分裂』は、「先生がこれからはお母さんとは別れて、再び結婚の準備をしなければならぬ」と翻訳しますが、これは意図的な「誤訳」です。正しくは「先生が**これからはお母様と分かれて、再び結婚の準備をしなければならぬ**」になります。「離婚」を意味する「別れて」と翻訳することはできま

けることができませんでした。これは誰の責任でしょうか。父母として、この時代の責任を負った者として恥ずかしいことです。ですから、私はお父様に了解を求めました。お父様がお乗りになつていたヘリコプターを売る計画です。私が使わなければ、誰も使う人がいません。……ですから、お父様に報告したので、私はこれを売って、後代のための指導者を養成し、二世を養育する目的の奨学金として世界的に使おうと思うと申し上げました。すると、『オンマの思うとおりにしなさい』とおっしゃいました」(『韓鶴子総裁御言選集1・真の父母様を中心とした一つの世界』212ページ、成和出版社)

真のお母様は、「二世を天の前に捧げることができませんでした。……二世を養育する目的の奨学金として世界的に使おう」と二世教育を決心され、「お

せん。この「誤訳」は「創始者が韓鶴子に対する残念な感情」を持つているかのように描くため、あえて「別れて」と翻訳しているものです。これは「聖別」を意味する「分かれる」と訳すべきものです。

真のお父様は、次のように語っておられます。

「神様の祖国と平和王国時代を宣布したその上に存在する前には、神様の祖国の所有物になれる、なれない? (なれません!)」それを考えなければなりません。だから、待つのは天一国十二年までです」(マルスム選集433-137、二〇〇四年一月二十六日)

真のお父様は、二〇一三年天曆一月十三日を「天一国」の起源となる日、すなわち「基元節」として定められ、その日には三度目の完成的「真の父母様の結婚式」(『トゥデイズ・ワー

ルドジャパン』二〇一一年天  
曆九月号、13ページ)を執り行  
うと語られました。

二〇〇四年一月二十六日、「先  
生がこれからはお母様と分かれ  
て、再び結婚の準備」をされる  
と語られたその意味は、二〇一  
三年天曆一月十三日に行う予定  
の三度目の完成的「真のお母様  
の結婚式」のことです。それで、  
真のお父様は「待つのは天一国  
十二年まで」と語られたのです。  
したがって、『統一教会の分裂』  
が「先生がこれからはお母さん  
とは別れて」と訳すのは、悪意  
のある「誤訳」です。

また、「今まで世間に染まっ  
ています」というみ言は、真の  
お母様のことではなく、祝福家  
庭のことについて語られたもの  
です。真のお父様は二〇〇四年  
一月二十六日の同じみ言で次の  
ように語っておられます。

「皆さんの血族という父母や  
全ては野生のオリーブの木なの

〇四年二月号、60ページ)

真の父母様のこのみ言は、祝  
福家庭が果たすべき「特別責任」  
について語られたものです。そ  
れは、祝福家庭が氏族圏を祝福  
し、カイン世界を「浄化させな  
ければならない責任」があるとい  
うものです。氏族圏を祝福す  
ることで「神の祖国の上に立つ  
ことができる氏族、民族、国家」  
が形成されるのです。

また、真のお父様は二〇〇四  
年一月二十六日に、次のように  
語っておられます。

「先生がこれからはお母さん  
とは別れて、再び結婚の準備を  
しなければならぬというので  
す。そうです。今まで世間に染  
まっています。そうだからと  
言って、他の人の家庭とすると  
いうのではありません。愛し続  
けることができないうので  
す。きれいに清算して、再び愛  
さなければならぬというので

です。……この世の全てのもの  
は(そのままでは)私と関係を  
結ぶことができないのです。な  
ぜですか? 彼らは真の父母と  
関係がないからです! 関係が  
あるようにするには、神様の愛  
の怨讐である姦夫の血統を受け  
た後継者であるので、これを完  
全否定しなければなりません。  
……皆さんが同じ家でそのよう  
な(野生のオリーブの木である)  
母を持つており、父を持つてお  
り、兄弟を持つているというの  
はありえない事実だというこ  
とを知らなければなりません。  
……今年にはこのことを整備し  
なければならぬのです。同じ  
部屋で一緒に彼らと息を吸い、  
ご飯を食べているのです。それ  
を清算してしまわなければなり  
ません。泣こうが、何をしよう  
が、切って接ぎ木しなければな  
らないのです」(マルスム選集  
433-129-131)

真のお父様は、「真の父母と

す。それで、統一教会の教会員  
たちも、先生を最も恋慕い、  
先生の後ろだけ従っていき、世  
間の男性を否定したのですが、  
今からはそのように先生だけ考  
えていたのを、先生を否定して、  
天の国の娘になったり、息子に  
なったりして、その男性たちが  
もつと愛さなければならぬ、  
というのです。自分を生んでく  
れた母、父を本当に愛しなさい  
というのです」(マルスム選集  
433-139)

真のお父様は、「統一教会の  
教会員」が、今まで「先生の後  
ろだけ従っていき、世間の男性  
を否定」してきたが、今からは  
「先生だけ考えていた」のを否  
定し、「自分を生んでくれた母、  
父を本当に愛しなさい」と語ら  
れました。これは二〇〇四年一  
月一日、「真の神の日」にお父  
様が語られた祝福家庭の「特別  
責任」の内容であり、自分の両親  
や親族を祝福に導き、「神様

関係がない」祝福家庭の両親や  
兄弟などと「同じ部屋で一緒に  
彼らと息を吸い、ご飯を食べて  
いる」ことを指摘され、「今年  
にはこのことを整備しなければ  
ならない」と語られました。す  
なわち祝福家庭が、その氏族圏  
を祝福することで真の父母に  
「接ぎ木しなければならぬ」  
と言われたのです。

『統一教会の分裂』が「いま  
で世間に染まっています」と引  
用したみ言は、祝福家庭に対し、  
「真の父母と関係がない」両親  
や兄弟は「神様の愛の怨讐であ  
る姦夫の血統を受けた後継者」  
であるために、これを「完全否  
定」しなければならぬと語ら  
れたものです。

また、「きれいに清算して、  
再び愛さなければならぬ」と  
語られた意味も、祝福家庭の両  
親や兄弟を、真の父母様に「接  
ぎ木しなければならぬ」、す  
なわち祝福を通して「神様の愛  
の怨讐である姦夫の血統」を清

の祖国と平和王国時代に生きる  
存在」になりなさいという意味  
なのです。

『統一教会の分裂』が引用し  
た二〇〇四年一月二十六日のみ  
言には、真のお父様の「韓鶴子  
の不従順」に対する「残念な感  
情」など一切含まれておらず、  
これは祝福家庭が「自分を生ん  
でくれた母、父を本当に愛し」  
て氏族圏を祝福することで、「神  
様の祖国と平和王国時代に生き  
る存在」となってほしいという  
切実な思いで語っておられるみ  
言です。

ところが、『統一教会の分裂』  
は、真のお母様をおとしめよう  
と、前後のみ言を隠蔽し、み言  
の真意をゆがめているのです。

(3)二〇〇四年八月三十一日  
のみ言―「不信する韓鶴子の態  
度」は存在しない

『統一教会の分裂』は、真の  
お父様が「韓鶴子の不従順」に

算し、互いに愛し合う「神様の  
祖国と平和王国時代に生きる存  
在」となりなさいという意味な  
のです。

ところが、『統一教会の分裂』  
は「韓鶴子の不従順」な姿を何  
とかして描こうと、み言を隠蔽  
し、真のお父様の語っておられ  
る真意をゆがめて、虚偽の主張  
をしているのです。

二〇〇四年一月一日の「真の  
神の日」記念礼拝で、真のお父  
様は次のように語っておられます。

「お兄さん、お姉さんのカイン  
世界が残っているのです、『特別聖  
塩と聖酒』を使って、それを浄  
化させなければならぬ責任が  
あり、統班撃破完了をしなけれ  
ばならないのです。それが特別  
責任です。……『特別聖塩』と  
『特別聖酒』を使って祝福し、カ  
イン、アベル圏をつくってこそ、  
神の祖国の上に立つことができ  
る氏族、民族、国家が形成され  
るのです」(『ファミリー』二〇

対し苦心しておられるみ言であ  
るとして、二〇〇四年八月三十  
一日のみ言を次のように引用し  
ます。

「今も私がお母さんに、お金  
の全権を与えました。……そう  
だからと言って、お母さんの好  
き勝手に使っているのではあり  
ません。天に報告し、父母様の  
承諾を得て使うべきであり、お  
母さんが勝手に使っては引っか  
かるのです。お母さんはよく理  
解しなさい」(247ページ)

『統一教会の分裂』は、この  
み言を「不信する韓鶴子の態度」  
に言及したみ言であると述べま  
す。しかし、これも、虚偽の主  
張です。

まず、『統一教会の分裂』の  
引用したみ言には「……」で省  
略した部分がありますが、これ  
は重要な部分を隠蔽するため  
です。以下、「……」の部分青  
い文字で表記します。

「今も私がお母さんに、お金の全権を与えました。献金が入ってくれば、お母様が受けるのであって、私が受けません。」

そうだからと言って、お母さんの好き勝手に使っているのではありません。天に報告し、父母様の承諾を得て使うべきであり、お母さんが勝手に使っては引っかけたかかります。お母さんはよく理解しなさい」（マルスム選集4661246）

『統一教会の分裂』は「献金が入ってくれば、お母様が受けるのであって、私が受けません」という部分を意図的に削除し、「お金の全権」に対する具体的な内容を隠蔽しています。真のお父様は「献金が入ってくれば、お母様が受ける」という「お金の全権」を真のお母様に与えたと語っておられます。『統一教会の分裂』が引用したみ言は、重要な前提となる部分が削除さ

れています。

さらに、真のお父様は、このみ言の直前の部分で次のように語っておられます。

「今回、総生畜献納をしなさいというのに、皆が全て躊躇しています。……世界の女性たちの貯金通帳をみんな集めて世界銀行をできるようにすれば、経済圏が完全に統一されてしまうのです。エバ（女性）によって失ったために、エバ（女性）によって取り戻さなければならぬのです。今も私がお母さんに、お金の全権を与えました。献金が入ってくれば、お母様が受けるのであって、私が受けません」（マルスム選集4661246）

このように、真のお父様は「総生畜献納」による「献金が入ってくれば、お母様が受ける」と語られました。また、「エバ（女性）によって失ったために、エバ（女性）によって取り戻さ

なければならぬ」ため、真のお母様に「お金の全権」を与えておられるというのです。

また、真のお父様は、続けて次のようにも語っておられます。「天に報告し、父母様の承諾を得て使うべきであり、お母さんが勝手に使っては引っかけたかかります。お母さんはよく理解しなさい。一銭であっても全て記録を残して、どこに使ったのかを説明しなければならぬのです。こうして国を取り戻した後に、世界を取り戻した後に、金銭も管理できる全権時代が先生に渡ってくるのです」（マルスム選集46612461247）

真のお父様は「一銭であっても全て記録を残して、どこに使ったのかを説明しなければならぬ」と語っておられ、そのことを「お母さんはよく理解しなさい」と指導しておられます。にもかかわらず、『統一教会の分裂』は、真のお母様がお金を

「勝手に使って」いるかのよう

にみ言を引用しているのです。以上のように、『統一教会の分裂』は、二〇〇二年一月二十三日、二〇〇四年一月二十六日、同年八月三十一日の三つのみ言を引用し、それらが「韓鶴子の不従順」を裏づけるみ言であると主張しますが、それらを検証すると、ことごとくみ言の前後の部分を隠蔽し、自分たちの主張に合致するよう、詐欺的引用をしているのです。さらに、恣意的な解釈によって、み言の真意をゆがめているのです。

私たちはこのような、虚偽の解釈・主張に惑わされてはなりません。真の父母様のみ言を純白な心で正しく理解し、天の父母様（神様）と真の父母様の心情、事情、願いと一つとなつて、神氏族メシヤ勝利のため「中斷のない前進」をしていかなければなりません。